

知的財産の成果 Achievements in Intellectual Property

研究・開発を推進する過程で創出された成果を発明の観点から権利化している。その際、当社の強み技術での知財ポートフォリオの確立とグローバル事業展開を見据えたグローバル知財力の強化を図ることにより、知財ポートフォリオの価値を高めている。

日本登録特許件数 (2015年)

順位	企業名	日本登録特許件数
1	トヨタ自動車	4,601
2	キヤノン	3,735
3	三菱電機	3,375
4	東芝	2,670
5	パナソニック	2,574
6	富士通	2,325
7	セイコーエプソン	2,198
8	リコー	2,052
9	デンソー	2,000
10	本田技研工業	1,904

* PatentSQUAREを利用した調査結果

米国登録特許件数 (2015年)

順位	企業名	米国登録特許件数
1	IBM	7,355
2	三星電子	5,072
3	キヤノン	4,134
4	Qualcomm	2,900
5	Google	2,835
6	東芝	2,627
7	ソニー	2,455
8	LG電子	2,242
9	インテル	2,048
10	マイクロソフト	1,956

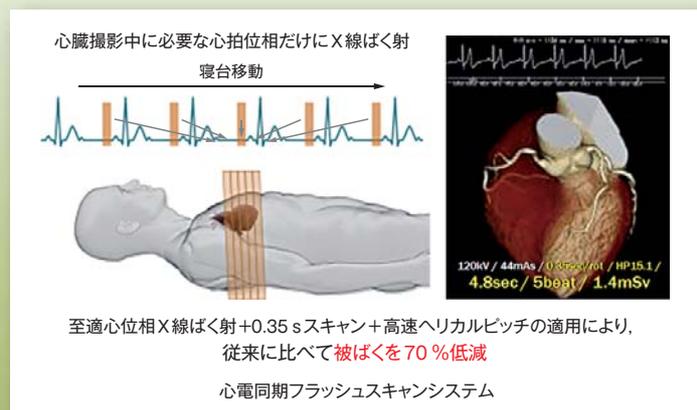
*米IFI CLAIMS Patent Services データ

東芝グループの様々な先端技術は社会的にも高く評価されており、公益社団法人 発明協会から、科学技術の向上と産業の発展に功績があったことが認められ、2015年度の全国発明表彰及び四国地方発明表彰で下記の賞を受賞した。

全国発明表彰【発明賞】 特許第4503727号「被ばくを低減し心臓を画像化するX線CT装置」

従来、心臓検査の多くはアンギオ装置で行われていたが、侵襲性が高く、検査費も高額であったことから、空間分解能が高く、再現性があり、画像ひずみのないX線CT（コンピュータ断層撮影）装置による心臓検査が強く望まれていた。X線CT装置で心臓を画像化するセグメント再構成方式では、複数心拍分の投影データを用いるため長時間のX線被ばく射が必要であった。そのため、限定した症例しか心臓CT検査を行うことができなかった。心臓CT検査を一般化するためには、前述したX線被ばくの低減が必須となっていた。

この発明は画像診断用X線CT装置の低被ばく撮影を可能にするもので、心臓検査において、患者の心電図情報から心臓の動きを推定し、動きの大きい心位相でX線被ばく射を停止し（若しくはX線出力を下げ）、動きの少ない心位相で画像再構成に必要な投影データを収集するように回転制御する。これにより、患者へのX線被ばくを大幅に低減させつつ、従来検査法と同等な高画質の3次元画像による心臓CT検査を実現した。



四国地方発明表彰【発明協会会長奨励賞】 特許4339864号「自動車前照灯用メタルハライドランプ」

この発明^(注)は、自動車の前照灯などに用いられるメタルハライドランプの封着技術に関するものである。ガラス発光管封着部に用いる金属箔（はく）の表面に数十 μm の微細な凹凸加工を施すことで、金属箔とガラスの密着性を高め、点灯中の熱応力により生じるガラスと金属箔との界面剝離を抑制した。その結果、不点灯に至るリスクが改善された。

2008年から量産を行っている自動車前照灯用の水銀フリーメタルハライドランプに採用されており、製品の長寿命・高品質化に大きく貢献している。

(注) 東芝ライテック(株)の単独特許。

